

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

提出日 平成 年 月 日

協議会開催日(書面決議日) 平成 年 月 日

協議会名: 荒尾市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(有)荒尾タクシー、平和タクシー(有)、(有)有明タクシー	荒尾市予約型乗合タクシー(平井地区)の運行	チラシを新たに作成し、住民へ配布するとともに、コミュニティFMを活用し、情報発信を強化した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 利便性に関する満足度については16%で、目標値の15%を達成できたが、利用者数については23.03万人で、目標値の23.8万人を達成できなかった。	利用者数は増加しているため、引き続き利用実態を把握しながら、運行サービスの拡充や利用方法の周知強化などにより利用者数のさらなる増加を検討する。
(有)荒尾タクシー、平和タクシー(有)、(有)有明タクシー	荒尾市予約型乗合タクシー(府本地区)の運行	チラシを新たに作成し、住民へ配布するとともに、コミュニティFMを活用し、情報発信を強化した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 利便性に関する満足度については16%で、目標値の15%を達成できたが、利用者数については23.03万人で、目標値の23.8万人を達成できなかった。	利用者数は増加しているため、引き続き利用実態を把握しながら、運行サービスの拡充や利用方法の周知強化などにより利用者数のさらなる増加を検討する。
産交バス(株)	住吉線の運行	広報紙や市ホームページ、コミュニティFM等による住民への情報発信の強化により、利用者の増加を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 利便性に関する満足度については16%で、目標値の15%を達成できたが、利用者数については23.03万人で、目標値の23.8万人を達成できなかった。	利用者数は下げ止まりが見られるものの、沿線には高校があり、潜在的なニーズも見込まれるため、ターゲットを絞った利用促進を検討する。
産交バス(株)	助丸線の運行	広報紙や市ホームページ、コミュニティFM等による住民への情報発信の強化により、利用者の増加を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 利便性に関する満足度については16%で、目標値の15%を達成できたが、利用者数については23.03万人で、目標値の23.8万人を達成できなかった。	利用者数は下げ止まりが見られるが、さらなる増加を図るため、自動車運転免許の返納を検討する世代を中心に、公共交通利用への転換を促すための事業を検討する。
産交バス(株)	八幡台線の運行	広報紙や市ホームページ、コミュニティFM等による住民への情報発信の強化により、利用者の増加を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 利便性に関する満足度については16%で、目標値の15%を達成できたが、利用者数については23.03万人で、目標値の23.8万人を達成できなかった。	利用者数は減少傾向であるため、自動車運転免許の返納を検討する世代を中心に、公共交通利用への転換を促すための事業を検討する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

提出日:平成 年 月 日

協議会開催日(書面決議日):平成 年 月 日

協議会名:荒尾市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域公共交通調査事業(計画策定事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【市民アンケート調査】 市内に居住する19歳以上の方2,000人を対象に、移動実態を調査した。 高齢者単身世帯の割合が高い地域が見られる中、高齢者の買い物や娯楽・イベント参加などの活動的な移動が多く見られた。一方、若年層については、多様な移動が見られたものの、自家用車への依存度が高く、公共交通利用への転換可能性は低いと思われる。</p>	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	<p>買い物や娯楽・イベント参加など、高齢者の活発な移動を支援するための移動手段を確保することで、交流による地域活性化や、健康増進に向けた活動を促進する。 また、高齢者単身世帯の増加や自動車運転免許の自主返納意向の高まりも踏まえ、自家用車に頼らず自由に移動ができる環境を整える。</p>
<p>【高校生アンケート調査】 市内及び隣接市内の全高校・全生徒を対象に移動実態を調査した。 鉄道を利用した広域的な通学実態が見られ、休日においても市域を越えた移動が多く見られたものの、路線バスの利用は低迷していた。</p>	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	<p>通学においては、鉄道駅と市内各高校のアクセスを強化することで、雨天時でも自転車に頼らずに移動ができる環境を整えるとともに、休日においても、移動ニーズに合わせた路線を整備することで、利用者を増やすことを目指す。</p>
<p>【民生委員アンケート調査】 民生委員に対し、市内各地区の交通弱者の状況や移動に関する実態を調査した。 移動のニーズはあるが既存の公共交通網ではアクセスしにくい箇所などが分かった。</p>	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	<p>地区ごとの移動ニーズを踏まえた路線の編成や便数の確保など、それぞれの地区に合わせた細やかな対応を行う。</p>
<p>【路線バス利用者聞き取り調査】 産交バス(株)の運行する全路線全便に乗り込み、利用者数の集計や利用者への聞き取りにより利用実態を調査した。 利用の低迷する路線や非効率な路線が見られた。</p>	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	<p>路線バスの運転士が不足する中、多様化する利用者のニーズに対応していくため、利用が低迷する路線をはじめ、移動ニーズに合致していない路線を見直すことで、運行の効率化を図る。</p>
<p>【バス停待合環境調査】 市内のバス停の待合環境を調査した。 利用の多いバス停ほど概ね上屋が設置されている状況であるが、老朽化が進行しているところもあった。</p>	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	<p>バス停上屋などの設置に当たっては、道路の構造を踏まえ、通行の安全を確保する必要があることから、利用状況なども総合的に勘案し、整備方針を検討する。</p>
<p>【観光来訪実態調査】 市内に観光目的で来訪した方の移動実態やニーズを調査した。 観光来訪者は多く見られるが、自家用車で移動がほとんどであった。</p>	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	<p>観光来訪者にも利用しやすいよう、鉄道駅を起点とした公共交通網を活用して情報発信を強化するとともに、様々な交通モードを活用し、施設の周遊性を高めることを検討する。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

提出日：平成 年 月 日

協議会名：	荒尾市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<ul style="list-style-type: none">●高齢社会への対応や財政負担の軽減、環境問題等に配慮しながら、利便性の向上を図る。○地域間幹線である「桜山玉名線」と、支線である「予約型乗合タクシー」や住吉線をはじめとしたバス路線が連携することで、玉名市・荒尾市両市の地域間の移動や市内の移動がスムーズとなり、効率的な運行体系及び乗継ぎを実現する。●地域公共交通の利用者の増加を目指す。○農村集落が点在する「平井地区」及び「府本地区」では、予約型乗合タクシーの運行により、高齢者等の買い物や通院などの日常生活に必要不可欠な移動手段を確保する。また、新たな需要を喚起するため、若い世代や観光客にとっても利便性の高い公共交通体系の構築を検討するとともに、ターゲットに合わせた情報発信を強化する。●市民みんなで地域公共交通を「守り」「育む」意識の高揚を図る。○広報紙やホームページを活用し、啓発を強化する。